皮膚科／形成外科

診療科動画　皮膚科 HP

診療科動画　形成外科 HP

１．スタッフ

皮膚科診療科長（教授）福島（ふくしま）　聡（さとし）

形成外科診療科長（講師）増口（ますぐち）　信一（しんいち）

准教授１名
講師２名、特任准教授１名
特任講師１名
助教３名、特任助教１名、
診療助手３名、医員１５名、
医員パート 11 名

２．診療科の特徴、診療内容

皮膚科においては、皮膚病全般に対する診断と治療を行っているが、中でも全身性強皮症などの膠原病、アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、日光過敏症、老化に伴う皮膚疾患、悪性黒色腫をはじめとする皮膚悪性腫瘍、血管腫、母斑などの診療に力を注いでいる。また、血管腫や太田母斑に対するレーザー治療を行っている。尋常性乾癬や悪性黒色腫、慢性蕁麻疹、アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤治療、分子標的薬などの最新の治療にも積極的に取り組んでいる。

形成外科においては、①皮膚や軟部組織腫瘍の外科的治療や術後変形（乳癌術後の乳房再建など）に対する治療②熱傷、外傷後の変形に対する治療③外表の先天異常（手足の異常など）などを対象としている。基本手技としては、種々の皮弁形成術、マイクロサージャリーを用いた血管・神経吻合術、複合組織移植、リンパ浮腫に対するリンパ管細静脈吻合術などを行っている。

３．診療体制

○外来診療体制

＊皮膚科では、月～金曜で外来診療を行っており、初診担当医２名（火曜日を除く）と再診担当医３～６名を配置し、多くの皮膚科専門医による幅広い診療を行っている。

＊形成外科では、水、木曜に、形成外科専門医による外来診療を行っている。

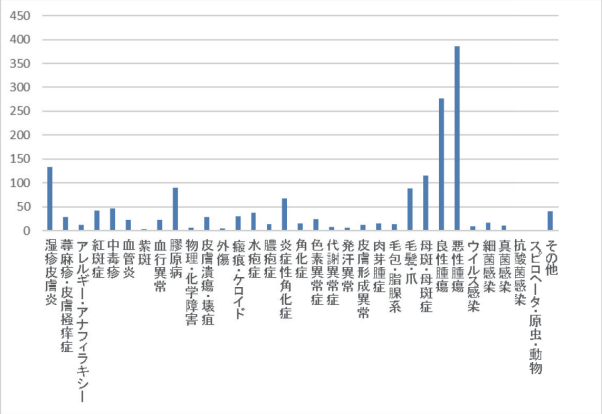
○病棟診療体制

病棟医長１名、副病棟長２名、手術医長１名をはじめ、23 名の病棟医が担当する。病棟医は 5, 6 名ずつ４つのグループに分かれ、グループ医制を実施している。手術日は月、木、金曜となっている。火曜日は回診および病棟カンファレンスを行っている。月、水、木、金曜は午前・午後ともに病棟処置の体制をとっている。

４．診療実績

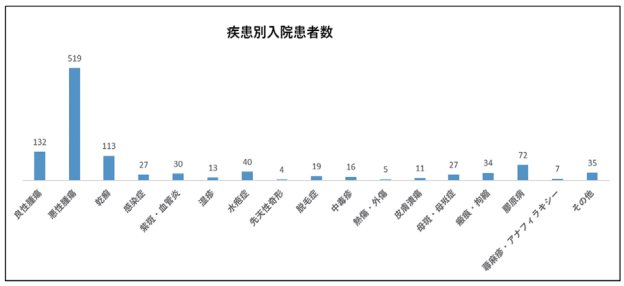
○外来患者実績

完全予約制を導入し、県内の関連病院皮膚科および皮膚科クリニックと密な病診連携を努めている。外来新来患者数は皮膚科 2, 050 名、形成外科 246 名であった。再診患者数は、皮膚科 11, 994 名、形成外科 1, 594 名であった。主な疾患の内訳では腫瘍性疾患、湿疹・皮膚炎、感染症、中毒疹、蕁麻疹、膠原病などの患者数が多くなっている。



○入院患者実績

入院患者数は 1, 104 名であった。



○主要な疾患の治療実績（成績）

＊悪性黒色腫

年間のべ 195 名の入院があり、外科的切除可能な症例に対しては、色素法、RI 法に ICG 法を併用した３者併用センチネルリンパ節生検など、根治性を保ちつつ、侵襲を抑える術式を取り入れている。切除不能症例に対しては、BRAF/MEK 阻害剤などの分子標的薬、あるいは抗 PD-1 抗体、抗 CTLA-4 抗体などの免疫療法による治療も積極的に行なっている。

＊膠原病

膠原病の入院患者数は 72 名となっている。その内

訳は、全身性強皮症が30例最も多く、さらに全身性エリテマトーデス14例、ベーチェット病12例、皮膚筋炎9例でそれに続いている。その他関節リウマチなどの患者で皮膚科的治療を必要な場合の入院加療も積極的に行っている。

＊尋常性乾癬

尋常性乾癬に対してはナローバンドUVB照射や生物学的製剤による治療を年間のべ113名の症例に対して行い、良好な治療効果を得ている。

〇手術の件数等

入院手術が490件であった。入院手術の内訳としては悪性腫瘍に関するものが多く、続いて良性腫瘍に関するものであった。

〇検査の実績等

炎症性皮膚疾患、水疱症、膠原病、皮膚悪性腫瘍など様々な疾患に対し、病理組織検査および免疫組織学的検査を施行している。接触皮膚炎や薬物による皮膚疾患については、原因検索のためパッチテスト、プリックテスト、薬剤によるリンパ球刺激試験などを行っている。皮膚腫瘍に対して、ダーモスコピーを用いた検査を行っている。

５．高度先進的な医療の取組

FISH法やデジタルPCR法を用いた悪性黒色腫の診断、難治性皮膚潰瘍に対する自己末梢血幹細胞移植による血管新生療法を行っている。

また、過去に隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断や単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症のリアルタイムPCRを用いた迅速診断は当科申請の先進医療から保険適応となった検査である。

６．臨床試験・治験の取組

臨床研究としては、「全身性強皮症早期診断基準案の有用性に関する前向き研究(多施設共同研究)」、「全身性強皮症の原因遺伝子解析研究(多施設共同研究)」、「限局性強皮症患者における日常生活動作障害の調査」、「悪性黒色腫における免疫応答解析に基づくがん免疫療法効果予測診断法の確立」、「乳房外パジェットがんに対する多剤併用化学療法の検討」「難治性潰瘍に対する無菌マゴットによる治療法開発の研究」「頭部血管肉腫に対するゲムシタビン療法」などを行っている。現在、治験としては、皮膚筋炎に対する治験が進行中であり、今度もアトピー性皮膚炎、乾癬、悪性黒色腫等、積極的に治験を行っていく。

７．地域医療への貢献

地域の拠点病院や開業医との間で病診連携を密にしており、また定期的な勉強会を開いて、情報の共有あるいはフィードバックを図っている。熊本皮膚科医会主催の皮膚の日記念市民公開講座を通じて地域住民の健康増進活動あるいは広報活動を行っている。

また、皮膚疾患の治療を語る会、皮膚アレルギー研究会、熊本湿疹研究会、アレルギー・膠原病研究会、炎症性皮膚疾患を語る会、アトピー性皮膚炎研究会、かゆみ研究会など数多くの学術講演会を開催している。

８．医療人教育の取組

後期研修医に対し、1-2 か月に１回の割合で検査法や診断・治療についてスタッフからの講義を実施している。当診療科は、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医研修施設に指定されており、皮膚科専門医取得のための研修指導体制も整備されている。

また、平成20年６月より日本アレルギー学会専門医教育施設に認定されている。

また、日本皮膚科学会認定皮膚悪性腫瘍指導専門医あるいは美容皮膚科・レーザー指導専門医取得のための研修も行っている。その他、がん治療認定施設に認定されている。

９．研究活動

1) 膠原病および炎症性皮膚疾患におけるプロテオーム解析による病態解明を行っている。
2) 膠原病および炎症性皮膚疾患における cell free DNA に関する解析、研究を行っている。
3) 膠原病における各種サイトカインおよび細胞外マトリックスについて研究を行っている。
4) iPS 細胞から分化誘導したマクロファージによる新規細胞治療の開発を行っている。
5) 悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬のバイオマーカー探索を行っている。
6) 悪性黒色腫における新規治療標的の探索を行っている。
7) 乾癬表皮における蛋白発現、ケモカインの解析について研究を行っている。
8) アトピー性皮膚炎については、発症メカニズムやバイオマーカーついての基礎的研究を行っている。
9) 皮膚老化と血管新生、コラーゲン蛋白の代謝機構の解明についての研究を行っている。
10) 低酸素環境における血管肉腫悪性化機序の解明について研究を行っている。
11) 皮膚末梢血管についてアンギオソームの概念を導入した臨床的研究を行い、安全な新しい皮弁の開発を目指している。